

## 上池（かみいけ）

### 位置図



### 諸元

貯水量	277.0	千m <sup>3</sup>
満水面積	8.6	ha
受益面積	100.0	ha
堤高	5.4	m
堤長	1,112	m

上池は、丸亀市の南西部に位置し、貯水量は旧丸亀市内のため池の中でも第4位と比較的大きなため池です。池の形がほぼ正方形の皿池となっていることが上池の特徴です。

「たるみのむかし話」(宮川ユキ著)によると、上池の広さは8町8反であり、天正の兵火に焼けた長法寺の跡地に築かれたとされています。また、「新修丸亀市史」には、1710年から1718年に日照りが長く続いたために、垂水町に上池が築かれたものとも記されています。これらの史料によれば、上池の四方の堤長は約950mであったとされており、現在の規模よりもやや小さいものであったそうです。

前出の「たるみのむかし話」には、大昔、今の池より200m程北にため池があり、ある日のこと、役人が来て「この池を大きくする」といって杭を打ち込んで帰った。すると、西村の住人がその夜のうちに杭を抜いて長法寺の跡地へ持って行って打ち込んだ。その上に池ができたので上池と呼ばれた。その杭が中の代(地名)の“もろだ荒神さん”のそばまでだったので、中の代の人々が池が切れたら困るといって、杭を抜いて現在地まで狭めたという水没地を巡った言い伝えがあります。

最近の改修工事は、昭和62年(1987年)から平成5年(1993年)の計7年間、県営老朽ため池等整備事業にて、総事業費290,740千円余を費やし、四方堤防1,112mの前付盛土及び張ブロック、樋管2箇所の実施しています。



上池と飯野山



上池と象頭山